No. 13

磐城中學校
新築落成
記念號

平新報

發行日毎月三回五の日發行
發行兼編輯印刷人 山野邊庄吉
發行所 福島縣平町田町五五 平新報社
廣告料 五號活字十二字詰一行一圓 同半圓 場所指定增倍
定價一部送料共五錢

磐城中學校
その沿革と現在の概要

白線二條！櫻花紋の學章！煙の平町揚土臺から高雅なる高月臺上に落ち着いた、吾が福島縣立磐城中學校の沿革とそして現在の概要は大略左の如くである。明治二十八年十月三十日福島縣尋常中學校磐城分校として舊菊田、磐前、石城全町村組合から設立願があつて同年十一月十六日認可になり、二十九年四月五日に開校同五月五日、縣吏員等も臨席して開校式を催したので同校の **開校紀念日** はこの五月五日となつ居るのである、三十一年四月一日分校を更めて第二尋常中學校となり、三十二年四月尋常の二字をとり、三十四年四月一日福島縣磐城中學校次に同年同月二十七日愈々現在の「立」が入つたのである。

初代校長 植竹源太郎氏

校舍敷地 は揚土臺には大正十二年三月三十一日迄で同年四月一日より現在の **高月臺** に移つたのである、生徒の數を見るに明治二十九年開校當時に百十六人の入學を許し、三十四年卒業生第一回四十三名を出した、三十四年四月在校生總數四百五十二人、在校生四十五年四月一日には五百二十一人となり、大正十一年四月一日は八百七十八人、現在本年四月一日在校生徒數千五十四人の二十二學級職員總數三十五人となつて居る、因みに現在の月謝は三圓五十錢外に校友會費月五十錢五年級にのみ修學旅行費積立として月五十錢であると尙

歷代校長は

▲植竹源太郎氏 明治四十四年三月迄

▲西村岸太郎氏 大正三年九月迄〔今は故人〕

▲桐谷文平氏 大正十年三月迄、次は

▲現校長滑川一郎氏である。

卒業生は

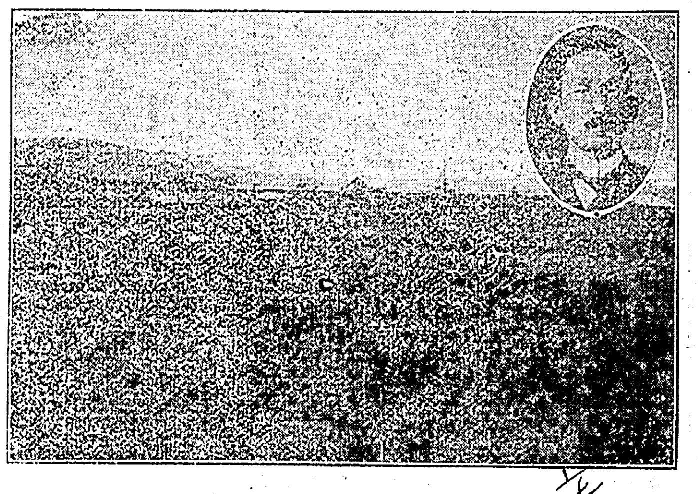
本年三月第二十六回迄壹千九百七十八人を出して居る、但しその死亡者は約一割はある樣である、尙ほ本年は定員二百四十名に對して六百三十人もあり中學校として入學志望率全國でも有數とせられ新校舍又完備の点に於て東北一であらふ、因みに同校校醫として醫師酒井國三郎氏は開校以來その職を奉じて居る。

●展覽會出品の數々●

△小學校兒童自由展覽會△縣下中等學校生徒作品展覽會△本校生徒平常成績品展覽會繪畫圖案△×會第廿六回展覽會△版畫展覽會△本校卒業生作品展覽會△美友會作品展覽會△近藤敎諭作品展覽會△美術學校借出傑作品展覽會△大家作品展覽會

●●●●●●● 同窓會の紀念事業
阿部氏等の努力に依つて
固定ネツト竣成
倉庫も出來るであらふ

同窓會の記念事業として種々意見があるが今日圖書館の如き少々の金額ではなし得ざるものであるから又圖書館なるものは民衆に便利な所に建つべきで中學校は余りにかけ離れて居る尙ほ圖書館は町で經營すべきものであるから火災の萬一に備ふるため新校地は水の不便なる所今日手近な事として二十五週年祝賀の余金壹千六百圓に足金して二千數百圓あれば二階建のコンクリー倉庫が出來る由なれば二階を物置きにして階下を圖書室として一般卒業生から持ち合せの書籍を以つて寄附さすれば良い次に目下工事に着した固定ネットは阿部政右衞門氏等の努力に依つて關東東北に稀れなるものが卒業生其他の據金で出來上り其の工費一千五百圓を投じ雄壯なるもの、いやが上に新校舍を美化した

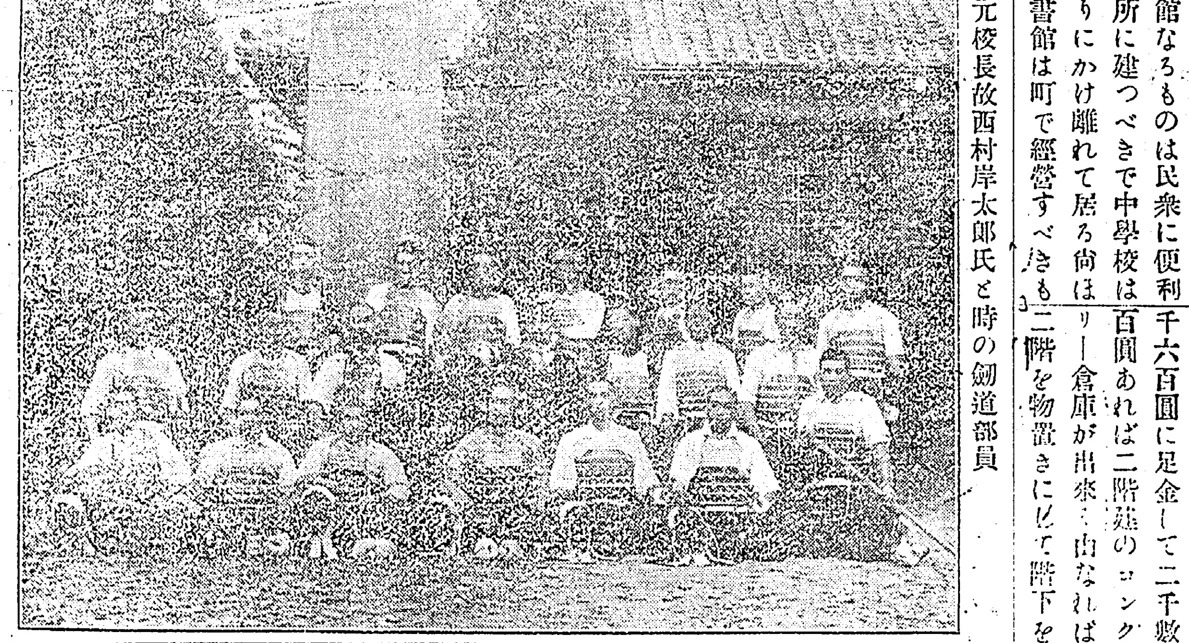


縣社八幡森より遠望せる磐城中學校新校舍全景と現校長滑川一郎氏

處 別紙

名も床しき
高月臺新校舍に
本日の開校紀念日をトし
磐中新築落成祝賀式
五日、六日は繪畫展覽會
七日は陸上大運動會

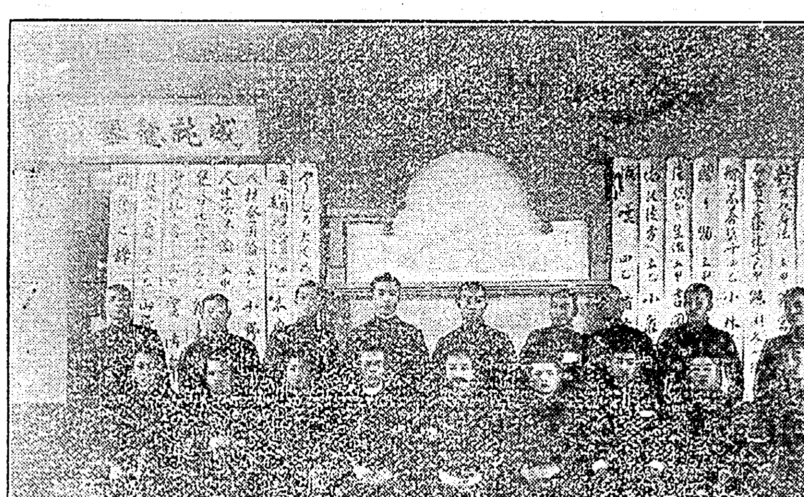
磐城中學校新築落成祝賀式は本日同校開校紀念日をトして同校講堂に於て時雨にかゝはらず午前九時より催すことになつて居る尙同校は五月六日の兩日は新築落成紀念大展覽會を催す筈にて出品は同校舍全部に飾つて開放すると又六日には美術學校敎授白濱徵氏を招きてその講話あり出品書の審査を請ふ豫定である續いて七日は雨天順延同校庭にて **陸上大運動會** あり磐中健男兒の雄々しい運動振りを觀せる事になつて居



元校長故西村岸太郎氏と時の劍道部員

時勢にアダプトして
同窓會役員の
改造を要すとの聲
會員一般に漲つて居る

磐中同窓會役員の改造問題が卒業生間に話題となつて居るが同窓會そのものは平町同窓員の同窓會にあらず各回數毎に、各地方四ッ倉小名濱、湯本、植田、勿來、江名、東京、双葉、多賀等各地方部々に幹事を設けて平町に常任幹事を置きてその連絡萬善を劃すべきものであるとの輿論が重きをなし居る來る八月には其改選期である現幹部諸氏須らくその間の事情を察して萬遍なく通知を出して出席を促すべきであるその經費の如き問題ではないと思ふと同窓生の某々氏等は語つて居る。



前校長桐谷文平氏と時の辯論部員

磐中同窓會
代々の役員

▲第一回(三十四年八月)會長金古久次、幹事森田一郎五年生に依賴したれは新年生▲第二回(三十五年)會長四條七十郎、幹事花澤山平、彼多野通理▲第三回(三十六年)會長比佐昌平副會長加藤木保次、幹事渡邊庄五郎、山崎宣吉▲第四回(三十七年)會長栗原一郎副會長山下健衞、幹事夏井要次郎、鈴木芳之助▲第五回(三十八年)會長堀尾成章副會長松本政勝、幹事山部正勇、西村東太▲第六回(三十九年)會長八木澤文吾副會長北郷博、幹事佐藤順平、新田目春松▲第七回(四十年)會長吉田哲五郎、副會長高萩桂次郎、幹事松崎林八、阿部政右工門、三瓶信一、比佐義勇▲第八回(四十一年)會長山崎宣吉、副會長淸水廣政、幹事加藤丈夫、諸橋嘉吉、梅原幸助▲第九回(四十一年)會長廣田德行、副會長新田目春松幹事白井一郎、小齋良、高萩寶▲第十回(四十二年)會長山崎淸三、副會長新田目春松、幹事田邊保皓、久山二郎、安島久▲第十一回(四十四年)會長山崎淸三、副會長新田目春松、幹事田邊保皓、新宮健雄、柴田德二、大正元年は開會を遠慮したり▲第十二回(大正二年八月)會長山崎淸三、副會長新田目春松、幹事山崎宣吉、松崎憲司、柴田德二これより任期を二ヶ年とす第十三回(八月十日)會長加藤丈夫、副會長阿部政右工門、幹事濱島操、山崎宣吉、佐藤貞吉▲第十四回(大正六年八月十日常選)會長山崎淸三、副會長新田目春松、幹事柴田德二、長瀨齋一、佐藤寶吉▲第十五回(大正八年八月十日)副會長新田目春松、根本毅一、二、長瀨齋一(十年八月新田目春松、石川友次郎、十二年再選會長井上貞治郎、副會長根本毅一、石川友次郎、幹事根本毅一、酒井淸、永山勇吉、藤田榮助、尙評議員として山崎淸三、淸水廣政、菅野順平、阿部政右衞門、加藤丈夫其後每年開會するも會員少く選擧せず今日に及ぶ。

寫眞說明

◆『上』前々磐中校長故西村岸太郎氏と時の劍道部員大正元年室師範送別紀念

向つて右より後列、齋藤、山野邊庄吉、[illegible]能明、根本一郎、高木吉男、大森義一、木田勇、中列、楠原保、永山篤平、白土子郎(死亡)中根松次郎先生、室先生、西村校長、三井、大和田郡司、前列、鈴木廣次、佐藤吉彌、白土渡、高岡佐藤信賢、奥の谷、大和田

◆『下』前校長桐谷文平氏と時の辯論部員大正四年拾一月五日辯論部大會記念

向つて右より後列竹村教智、小野保、諸橋鐵猊、小林美範(死亡)鯨岡久一郎、新宮涼平、篠崎正見小泉藤吉、中川六郎、前列園内山一、吉岡善一、鈴淸章、山野邊庄吉桐谷校長、山崎宣吉先生、木内勝美高木榕水、大谷享。

祝
磐城中學校
新築落成
石城郡銀行組合
平藝妓屋組合
平料理屋組合
平町會議員一同
山崎合名會社
東部電力平營業所
平學校長懇話會
平町醫師カロリ會

第十三號

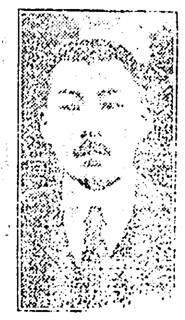
成

平町(縣會議員) 草野順平
◉第六回●●●
磐崎村 大平佐久馬
内郷村(村會議員) 加藤丈夫
平町(磐炭勤務) 新田目春松
四ッ倉町門馬醫院 門馬倉次郎
松本德一
勿來町 安島久一
勿來郵便局長 赤津一
平町自轉車商 鈴木彌太郎
◉第十回●●●
平町 龜田屋 三森虎雄
平町漆畑辯護士事務所 藥谷國平
平町中野吳服店 中野康平
平町著述業 たひら新聞社長 山田政好
平町水道課 松井深
勿來町々會議員 赤津庄兵衛
平町荒物商伊勢屋 阿部岩次
◉第十六回●●●
磐崎村 小泉恭平
草野村〔神谷校勤務〕 芳賀正義
鹿島村石城郡役所勤務 新妻一郎
草野郵便局長 新妻恭孝
錦村タカキ醬油釀造元 高木武一郎
近衛師團在營 應崎正見
大野村玉山 草野應次
植田町肥料雜貨商 齋藤直一
磐崎村〔醬油釀造業〕 御代德次
皆川三六
自治之研究社 酒井貞三
四ツ倉町 門馬公平
高久村 藁谷明
玉川村長 永井億彌
植田町醫師 山野邊文雄
鹿島村助役 新妻贇雄
好間村消防組頭 叶多淸
平町二丁目 既製洋服 あかや洋服店 電話二〇三番
平町田町 運動具靴商 大塚支店
平町五丁目 藥劑師 山野邊藥局 山野邊東次郎

卒業回數順に觀たる
磐中同窓會友動靜
多種多樣な活躍振り!!!

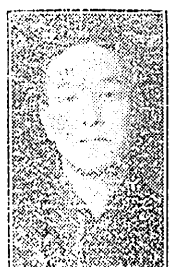
◬第一回（明治四十三年三月卒業）の卒業生四條七十郎氏東京都實業界に活躍し郷土石城にも何か關係して居るらしい中野甲藏氏の黑幕人物であると聞いて居る。舊姓木田瀧德也氏磐崎村屈指の資產を擁して其の村の重きなして居る。川前村の永山德一氏村長をなして居る……又この人俳句は堂に入つて居るといふ事である、栗原一郎氏南洋スマトラにゴム會社にて奮闘しつゝあつたが近時東京に居を占め何事か劃策しつゝあるを耳にして居る。安藤塚曆氏平町にて辯護士を開業し近來健康を害して居つたがこの頃全快したゞ切に自重自愛を祈る、此の期には**海軍中佐**猪瀨乙彥氏を出して居る、高久村の鈴木榮吉郎氏かつて郡制廢止前郡會議員を務め同村地方唯一の醫師として重きをなしてゐる。

◬第二回　には同窓生唯一の**代議士**


比佐昌平氏

がある、傾日政務調査理事になる報あり人格者として政治家學生時代よりの雄辯家益々地方民衆のため一大猛進を希望して已まぬ、次に大浦村の酒井良平氏郡廢前郡會議長や磐城實業銀行專務の要職にあつて將來を囑望されて居つたが近時病氣のため引こもりつゝありといふ、敎育者として母校に敎鞭を採りつゝある山崎宣吉氏多年國民敎育に怠りなき渡戸小學校長鈴木茂作氏ありこの氏は朝鮮全北警察部に警部をしてゐる鈴木茂平氏の實兄なりとか神谷村出身である、濱島操氏もこの期である合津重世氏平町に耳鼻咽喉科を開業し頗る男性的の人で刀圭界に重きをなして居る、昔なら小野庄一氏等と共に武勇傳中の人たるべく時折快腕を振はれるとか

◬第三回　に來て**醫學博士**八木澤文吾氏を出して居る。


山崎清三氏

平町**壚屋**山崎合名會社の若主人である、前同窓會の會長をなし目下は自家營業に多忙中、平町青年團長在郷軍人平分團長、その他平興國會の副會長の席にもあり頽廢しつゝある人心の作興に力めてゐる其他郷土平町に開業してゐる醫師として淸水、松村、木村の諸氏がある、廣田德行氏は山崎宣吉氏と同じく母校に敎鞭をとり同窓生と在校友生との連絡をとり種々世話をなして居る。

◬第四回　同窓生中早くも頭角を表はして居つた橫內直杉氏は幽明界を異にしたとか惜しみても過去の事である、小林美定氏勿來町に醫業を開業してゐる松原直治氏中學時代に苦學の人であると聞いて居つたが、今は助川の驛長をして居る樣だ、赤津誠內氏**醫學博士**となり星會社に居る箱崎清一氏豫備輜重兵中尉、磐炭で重要の職にある、多分湯本町水の谷の出身と聞いてゐる不幸續きゝであつた內郷宮の醫師高萩桂次郎氏穩堅の人として仁術に力めてゐる。

◬第五回　にて郷土平町に活動して居る人は眼科專門の牧原修平氏があり同窓生中唯一の**縣會議員**

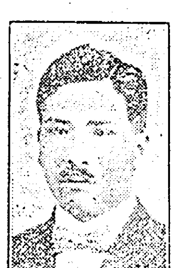
草野順平氏

磐城銀行の支配人であり同窓會の評議員をなしてをり俳句に趣味を以つて居る樣だ、鳴かず飛ばず三年とか縣議政壇上になか〳〵沈默を守つて居つたが過般の縣會には研調せる抱負を述べて新しい思想の持主の議員として男振をいやが上に揚げた。

◬第六回　當時母校の敎師に岡田毅三郎氏あり博物を擔當して盛んに刀圭界に向はしめたもので此處許片や同志會の軍人熱と、片や醫者樣熱とで卒業生の向ふ所は二派に別れてをつた觀があり、此の期にも市原陸郎氏門馬倉次郎氏其他鈴木健彥氏等の醫師を出してをり一方軍人には今泉吉貞氏の如き少佐藥谷忠衛軍醫がある、地方農村に磐崎村に大平佐久馬、吉田一義諸氏あり、早大出身もある樣だ、此の期で郷土にて特色あり重きをなしてをり人に知られてゐるのは

新田目春松氏

現同窓會長で磐炭に職を奉じてをり世話好きの人、同窓會にはなくてならぬ人であらふ。

加藤文夫氏


內郷村に居を占めてをつた同村々會議員の公職に在るが大半は平町白銀に事務所を設けて大貸家持で多額議員互選の資格者近き將來に縣議に打つて出るとかの噂さがある又內郷村**消防組頭**に推さるゝとの話もある、兎に角平に居つたときは山崎清三氏の前に在軍に關係し新田目氏の前の同窓會長であつた人でなか〳〵急がしい人である。

◬第七回　此の期には**師範一部**に入つた人多いと見え訓導六人もある先つ磐崎村出身の舊姓［大井川］篠原保治氏の植田小學校長玉川小學校長杉山勇馬氏等がある、比佐源造氏入山採炭で重きをなして居り**平町會議員**に阿部政右衛門氏あり母校に固定テツトを設くべく獻身的の努力をなしてゐる、此の熱心を以つて平町政に一層の氣勢を揚げて貰ひたいものである、佐藤武之氏は平小學校同窓を以つてなる**螢雪會**に立こもり眠れる町民に對し時々ピリツとした淸涼劑を與へてをる事は吾人の力強きを感ずるものである。泉村の松井汲氏何事をかなさねばならぬ人先づ伸びんとする者先づ屈せよで尺蠖の理を積んでゐるとの風說である、齒醫者の織田豐太郎氏古き地盤は動かぬであらふ、

磐銀專務　白井一郎氏

御名前許りでアヤリ親しく接した事なき故にその人となりは窺知し得ざるもかつて慶大卒後洋行したとか嚴父博之氏農工に入るに及びて後をうけて磐銀に事務に座つたのであるとか、頭取同然の專務!!若き**銀行專務**切に自重自愛地方財界に貢獻されん事を希望してやます。

◬第八回　町長問題と小學校問題で政黨の鬪ひ猛烈なる植田町助役の小野忠衛氏がある御隣の勿來町には收入役を勤めた橫山太一氏がゐる、舊姓野崎玉川出身で平の野崎蕭藏氏の令弟である頗る溫厚の人で地方人より敬愛されてをる平町には藝妓屋組合の牛耳を握つてゐる玉川の主人公國府田直良氏あり愛息は磐中に在學中、星一氏の獎學金をうけつゝある優等生である、磐崎村小學校長柴田正則氏この人自宅の渡邊村に巨資あり悠々として敎鞭をとつてゐる宣傳校長として知られてゐる、此の期五十九名中舊姓金成深澤定一氏を初め拾名死亡して居る。

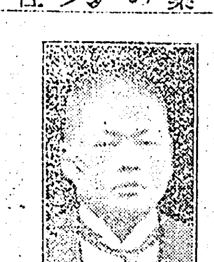
◬第九回　此の期は三三が九、三三會とか名打つて居る樣だ、平町在住に石島敎福氏の通人を初め書籍商の堀喜一氏醫師の若松信吾氏吉田芳太郎氏自轉車商惠美壽屋として知られて居る鈴木彌太郎氏、法學士辯護士**青年學校長**としての仲里文平氏、氏は平と湯本を折半に活動して居る**操觚界**に福島民報平支局長

山田磐磨氏

氏の干係する民報紙は政友會の機關紙であるが氏は常に穩健なる筆致を以つて公平なる報道をなして讀者より批難のうけぬ事は平操觚界のため祝福してやまざるものである。冀くば一步進んでたまには社會公正のため忌憚なき筆硯を振つて貰ひたいものである、勿來町には砲兵少尉の安島久氏郵便局長町會議員としての赤津一氏がある。

◬第十回　湯本町に仙臺商工卒の柳內準平氏磐炭に在り平町には龜田屋吳服店の三森虎雄氏平銀行員鳥海菊五郎氏等がある地方農村に磐崎村の織內公平氏大田原惠太郎氏田人の小野庄一氏は植田町の常磐工業に**請負業**として奮鬪して居る平町田町酒類販賣の金子直祐氏は商報を出して居る樣だ、金成忠義氏醫業場末の鎌田にあつて獨占の体でハやるとの事**快男兒**荒川精一氏は八回の佐川潔氏と何か後藤新平子の一派となつて活躍してゐる樣だ、平町辯護士酒井喜代正氏平法曹界では若手の辯護士として〳〵羽振りが良い樣である四家健吉氏江名長崎小學校に敎鞭をとつてゐる樣だ相變らずカラ黨かしら久野二郎氏平町で旅館を營んで居る小野直氏は今尙行衛不明であるとか。

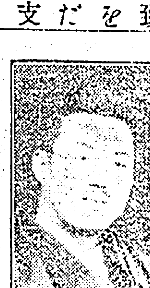
◬第十一回　新妻幸之助氏は平町に眼科を開業し紺屋町に本院を停車場通りに分院を設けて居り開業の日新たなれば同業者に狹まれて骨の折れる事だらふが技巧の勝れるに於て人氣をとりつゝある、藥谷兵庫氏湯本町入山採炭で醫業をなして居る樣だ、佐藤作平氏舊姓加納平町會議員加納五郎氏の長男であるが小名濱町佐藤家に婿入りして土屋覚氏の後をうけて、夕刊**磐城時報**の社長である平の新聞は比較的政黨の御先棒か然らずんば個性がありすぎてあまり偏して居る紙が多いうちに此の紙は比較的公平で多分岡田氏の編輯であらふが常に報道に際しその實際に當つて双方の談話を掲して居る當りその勞を採つて居る樣だ役の櫻花廣告燈、軒燈問題又は大谷保太郎氏事件の如き然りである、小名濱町助役高木保氏自治体に力を致し社會政策とか社會問題を研究して讀書を怠らぬ樣だ**磐城建物會社**の支配人として

井上貞治郎氏


同窓會では副會長であり圓滿の人で不動主義を標榜して成田不動山參詣の講中を組織してその世話役をなして居る平町二丁目青年分團長としての長瀨齋一氏亡父延太郎氏の名を襲名し、じみな米穀商を營んでゐる。植田町に法學士綠川秀男氏がゐる。

何でも、某炭山に關係してゐるらしい、近頃は遠藤俊一郎氏と同行するを見うける樣なれば「ヤマト」醬油創立の援助をしてゐるのかも知れぬ平町八幡小路にコツク式の住宅に住んで營業は四丁目に**マルトモ**柴田書店を營みをる柴田德二氏がある、元同窓會の副會長をなした事あり元氣のある奮闘をなしてゐる、江名町中之作の遠藤俊一郎氏**ヤマト醬油**株式會社を創立し目下運動中にて平町材木町に支店を出した樣だ

平町**釜屋**商店の

諸橋守次氏


平小學同窓會のサザレ會の會長をなし消防組の小頭部長友情に厚く富者ぶらざる事に於て人氣良く奮闘努力の人である。

◬第十二回　湯本町に若松修一氏磐城炭礦に重きをなしてゐる藥谷國平氏漆畑辯護士事務所にゐる樣だ、平中野吳服店の若主人中野康平氏商戰の第一線に立つて鮮やかな營業振りを見せて居り傍ら讀書に怠りない、野崎喜八郎氏シンガポールへ多年滯在歸省小名濱に靜養して居つたが過般上京してゐる樣だ自由人として知られた山田政好（綠川）氏**たひら新聞**を經營し傍ら著述をなしてゐる秀才須らく自重を望む、松井深氏平水道部の配給所たる八幡小路に藥學校を出ただけあつて草花に趣味がある樣だ、勿來町に地方富者として所得稅調査委員町會議員をなしつゝある赤津庄兵衛氏がゐる、氏は造林には造詣が深い由である、酒井菊雄氏は**醫學博士**に成つたとかである、平町**住吉屋支店**の酒井淸氏目下消防の幹部をなしてをりかつては田町青年分團長の職に在つた事あり同窓會では幹事である。

◬第十三回　平町にゐる人では小野信一郎氏が小名濱の磐崎屋支店を營みをる樣だ、飯野村の永山篤平氏『**磐陽男山**』銘酒の釀造をなしてゐるが俳句に趣味を持つてをり斯界では二「醉」として知られてゐる、根本毅一氏大正洋瓦會社としてセメント瓦製造を南町でなし中の作に分工場を設け同窓會では幹事をなしてをり新田目氏と等しく世話好で今回の移轉にも幾分つくしたと聞いてゐる磐中出身の醫者は平町に十四名ゐるが若き新進の人に南町に開業する**耳鼻咽喉專門**

大和田郁司氏

あり羽振りが良く平刀圭界に將來を囑望されてゐる、丸新館隣り角に新築を初めた建物は請負師丸山喜一郎氏の事務所である相な、石川友次郎氏阿部政右衛門氏の實弟である、目下同窓會の幹事を力めてゐる。

東都の團欒
磐揚の學舍に育まれた
在京磐中同窓會

幾山河遠く隔たりたる東都熱閙の巷においても、揚籠學舍を巣立ちし人達の和氣藹々たる團欒が催されれた。それは大正十三年晩秋の一夜、本郷燕樂軒に於て舉行され、茲に京濱及其の附近に在住する同窓生を以て組織された在京磐中同窓會なるものの創立が、在京會社同窓諸君の東都南北に[illegible]のである。その後第二回の會合を目黒不動前大黑屋に於て催し、前後とも七十名以上の出席者あり、本會の彌榮に隆昌に赴きつゝあるを見て、轉た欣快に堪へない。[illegible]又は笈を了へて實務に就ける壯年の紳士も、一度一堂に會しては、胸襟自ら開けて一系梓が偲び母校を思ふの情切實なるものがある。今や大磐城中學校は創立茲に三十[illegible]相互扶助の理想が東都同窓間に徐々ながらも實現されつゝあるのは誠に欣喜の至りと思ふ。

◬本會は春秋二回例會を開き、年一回名簿を作成して會員に配布する◈會員の互選によりて會長の職に在る四條七十郎君は第一回卒業にして壯年實業家として相當敏腕を認められ[illegible]磊落の一壯漢である◈[illegible]界に於て、皮膚科の泰斗醫博赤津誠內君（四回）は常任幹事として女房役を務め、本會事務萬般を[illegible]る。君は神樂坂に、多年野口博士に師事研讚せし技倆を猶ひ乍ら盛大に開業してゐる◈その他幹事としては陸軍省出仕の[illegible]兵少佐鈴木兵一郎君（五）大亞細亞協會の荒川精一君（十）大藏省勤[illegible]の江尻功造君（十五）法律評論社加藤德次郎君（十九）その他學生幹事としては新妻熊男、英雄、中野勇雄の諸君も本會の隆盛を祈りつゝ盡粹してゐる◈會員は學生百九十名その他二百名程[illegible]

KN生寄

◬第十四回　江名町中之作に吉田正雄氏あり町會議員であゝかつては縣議に打つて出でんとしたとか舊姓蘭部佐藤三德氏勿來町小學校に敎鞭をとつてゐる鹿島村下矢田出身である、松本淸之亟氏小名濱水產試驗場に製造部主任をなしてゐる目下平町田町より通勤してゐる樣だ、鹿島村に

に入つたがその後知何せしや聞知するを得ぬ、平野非幸太郎氏朝鮮全州に行つて居つたが歸省目下秋田縣に居るらしい。

◬第十六回（是の期は二八會友動靜として度々報道せし故郷土味のある人のみ再び紹介す）小泉碧平君磐崎村西郷で實直なる

夫となつて居る◬芳

三郎君は平町釜屋商店の計案廣告主任舍兄守次氏を補けて商戰これ努めて居る多忙中讀者に怠りない

◬關內正一君舊姓新妻平町**關內油店**主である二丁目火防組合長をなして居り蛟龍池中のものならず何れ雲を得ば何事かなさずにはおるまい。此の期は二八の十六の意味から

吉となつてゐる草野應次君拓殖大學を出で朝鮮に行つておつたが目下大野村玉山に在り同地溫泉石屋は君の實家である。

◬第十八回　卒業に**帝展**に數度入選した大森義夫君がある。

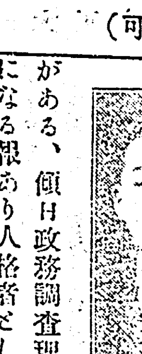
磐中現職員一同と第廿六回卒業生大正十五年三月卒

◬第十九回　出に操觚界に入つて大阪にゐる比佐友香君あり右兩君は共に磐中時代×會幹事として將來を囑望された人々でこの×會は同校關話科敎諭故森合仙太郎氏の創成せるもので今尙は校友會の重きをな

入の地位に在り前途有望とせられてゐる。

磐城文化史上に
貢獻しつゝある

磐中同窓動



がある、頃日政務調査理事になる報あり人格者としての政治家學生時代よりの雄辯家益々地方民衆のため一大猛奮を希望して已まぬ、次に大浦村の酒井良平氏郡磐前郡會議長や磐城實業銀行專務の要職にあつて將來を囑望されて居つたが近時

に開業してゐる醫師として淸水、松村、木村の諸氏がある、廣田德行氏は山崎宣吉氏と同じく母校に教鞭をとり同窓生と在校友生との連絡をとり種々世話をなして居る。

△第四回　同窓生中早くも頭角を表はして居つた橫內直杉氏は幽明界を異にしたとか惜しみても過去

た觀があり、此の期にも市原陸郎氏門馬倉次郎氏其他鈴木健彥氏等の醫師を出してをり一方軍人には今泉吉貞氏の如き少佐藥谷忠衛軍醫がある、地方農村に磐崎村に大平佐久馬、吉田一義諸氏あり、早大出身もある樣だ、此の期で鄕土にて特色あり重きをなしてをり人に知られてゐるのは

に固定チットを設くべく獻身的の努力をなしてゐる、此の熱心を以つて平町政に層一層の氣勢を揚げて貰ひたいものである、佐藤武之氏は平小學校同窓を以つてなる**螢雪會**に立こもり眠れる町民に對し時誼ビリッとした淸涼劑を與へてをる事は吾人の力強きを感ずるものである。泉村の松

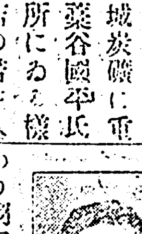
とつてゐる宣傳校長として知られてゐる、此の期五十九名中舊姓金成深澤定一氏を初め拾名死亡して居る。

△第九回　此の期は三三が九、三三會とか名打つて居る樣だ、平町在住に石島敎福氏の通人を初め書籍商の堀喜一氏醫師の若松信吾氏吉田芳太郎氏自轉車商惠美壽屋として知られて居

兒　荒川精一氏は八回の佐川潔氏と何か後藤新平子の一派となつて活躍してゐる樣だ、平町辯護士酒井喜代正氏平法曹界では若手の辯護士として〳〵羽振りが良い樣である四家健吉氏江名長崎小學校に敎鞭をとつてゐる樣だ相變らずカラ黨かしら久野二郎氏平町で旅館を營んで居る小野直氏は今

同窓會では副會長であり圓滿の人で不動主義を標榜して成田不動山參詣の講中を組織してその世話役をなして居る平町二丁目靑年分團長としての長瀨齋一氏亡父延太郎氏の名を襲名し、じみな米穀商を營んでゐる。植田町に法學士綠川秀男氏がゐる。

に若松修一氏磐城炭礦に重きをなしてゐる藥谷國平氏漆畑辯護士事務所にゐる樣だ、平中野吳服店の若主人中野康平氏商戰の第一線に立つて鮮やかな營業振りを見せて居り傍ら讀書に怠りない、野崎喜八郎氏シンガポールへ多年滯在歸省小名濱に靜養して居つたが過般上京してゐる樣だ自由人と



あり羽振りが良く平刀圭界に將來を囑望されてゐる、丸新館隣り角に新築を初めた建物は請負師丸山喜一郎氏の事務所である相な、石川友次郎氏阿部政右衛門氏の實弟である、目下同窓會の幹事を力めてゐる。

東都の團欒
磐陽の學舍に育まれた

在京磐中同窓會

幾山河遠く隔たりたる東都繁閙の巷にありても、磐陽學舍を巣立ちし人達の和氣藹々たる團欒[illegible]れた。それは大正十三年晩秋の一夜、本鄕燕樂軒に於て擧行され、茲に京濱及其の附近に在住する同窓生を以て組織された在京磐中同窓會なるものの創立が、在[illegible]會社同窓諸君の東奔西走によりてみたのである。その後第二回の會合を目黑不動前大黑屋に於て催し、前後とも七十名以上の出席者あり、本會の彌榮に隆昌に赴きつゝあるを見て、轉た欣快に堪えない。猶[illegible]又は業を了へて實務に就ける壯年の紳士も、一度一堂に會しては、胸襟自ら開けて一桑梓が偲び母校を思ふの情切實なるものがある。今や大磐城中學校は創立茲に三十年の[illegible]相互扶助の理想が東都同窓間に徐々ながらも實現されつゝあるのは誠に歡喜の至りと思ふ。

△本會は春秋二回例會を開き、年一回名簿を作成して會員に配布する◎會員の互選により[illegible]會長の職に在る四條七十郎君は第一回卒業にして壯年實業家として相當敏腕を認められ一[illegible]磊落の一壯漢である◎[illegible]界に於て、皮膚科の泰斗醫博赤津誠內君（四回）は常任幹事として女房役を務め、本會事務萬般を[illegible]る。君は神樂坂に、多年野口博士に師事研讃せし技倆を蓄ひ乍ら盛大に開業してゐる◎その他幹事としては陸軍省出仕の[illegible]兵少佐鈴木兵一郎君（五）大亞細亞協會の荒川精一君（十）大藏省勤務の[illegible]郎君[illegible]の江尻功造君（十五）法律評論社加藤德次郎君（十九）その他學生幹事としては新妻熊男鷲英雄、[illegible]野勇雄の諸君も本會の隆盛を祈りつゝ[illegible]してゐる◎會員は學生百九十名その他二百名程[illegible]

K N 生寄

△第十四回　江名町中之作に吉田正雄氏あり町會議員でありかつては縣議に打つて出でんとしたとか舊姓薗部佐藤三德氏勿來町小學校に敎鞭をとつてゐる鹿島村下矢田出身である、松本淸之助氏小名濱水產試驗場に製造部主任をなしてゐる目下平町田町より通勤してゐる樣だ、鹿島村に眞面目なる農を營みをる、三島五一郎氏近き將來に農村に重きをなすであらふ舊姓鈴木**藤田女學校長**藤田榮助氏

若き校長として將來を囑望されて居り目下同窓會の幹事であり種々育英と女子教育の向上に力め鮮やかな經營振りを見せて居る。

△第十五回　渡邊村に酒類釀造家として高木吉男氏がある湯本町長高木巳之吉氏の長男である、永山勇吉氏東京にて官界に奉職中とか、村上淸一氏四ッ倉登記所に勤めて居る、平商町に開業する　上田耕作氏**外科專門**として素破らしい人氣で患者常に捺室一パイである、山崎一郎氏飯野村長山崎吉平氏の[illegible]男目下京都裁判所に檢事を勤めて居る、小林讓三郎氏星製藥に營業部長をして居るといふ、平町五丁目荒物商町會議員阿部唯次郎氏の長男阿部岩次氏は商賣に熱心で元氣のある營業振りを見せて居る、甲子の佐藤一郎氏は大阪の藤本ビルブローカーに勤務中綠川德之助氏**一の平**として角力界に入つたがその後如何せしや聞知するを得ぬ、平野非幸太郎氏朝鮮全州に行つて居つたが歸省目下秋田縣に居るらしい。

△第十六回　（是の期は二八會友動靜として度々報道せし故鄕土味のある人のみ再び紹介す）小泉恭平君磐崎村西鄕で實直なる**農夫**となつて居る△芳賀正義君神谷校に教鞭を取て居る△新妻一郎君豫備陸軍少尉今回鹿島村在軍分團長に推されたが郡役所勤務の千係上辭したとか△新妻恭孝君草野郵便局長金の話しより何者もない△大越新君入山採炭では巾をきかして居る△岡田朝五郎君二本松の安達中學校に敎鞭をとつて居る、柔道は得手のものである、植田町に△小野保君石炭商を營み△森合芳男君は平より植田町に移轉**齒科**を開業し人氣が良い氏の技は堂に入つて居るの定評あり層一層の自重自愛を祈る△渡邊武四郎（舊名武雄）君は去年の一月故人となつた△吉岡善一君双葉郡で重きをなして居る由△吉田明信君磐崎村に家居して居る△高野爺藏君平驛車掌勤務、長瀨元治郎君國府津の電力區に勤務△鯨岡久一郎君湯本區會議員△鯨岡潔君湯本郵便局長△鷲淸章君松本昌光君共に星製藥に在り△佐藤績君は日本紙業社に在り、△吉田發男君舊姓倉田新川町町議吉田定太郎氏へ婿養子として砂糖商の第一線に立つて居る。湯本町△比佐榮一氏は同地で有名な**松柏館**の若主人である△菅原道一君も小名濱町で社會改良運動に趣味を持つて居る△鈴木幾造君新庄で稅務官吏△諸橋元三郎君は平町釜屋商店の會計兼廣告主任令兄守次氏を補けて商戰これ努めて居る多忙中讀書に怠りない△關內正一君舊姓新妻平町**關內油店**　主である二丁目火防組合長をなして居り蛟龍池中のものならず何れ雲を得ば何事かなさずにはおるまい。此の期は二八の十六の意味から**二八會**と稱し時誼會合し居る

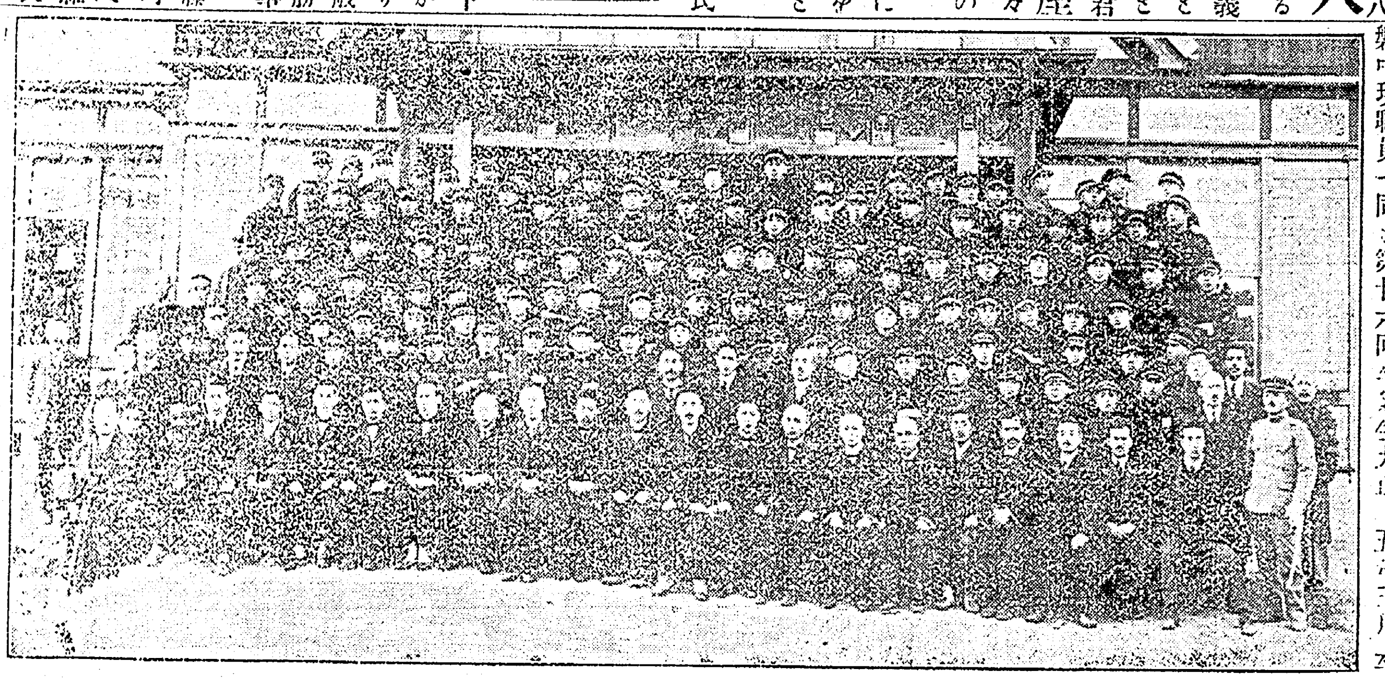
△第十七回　小野義篁君は目下順天堂に居るとか嚴父は近々湯本に呼ぶと云つて居る、靑天目益藏君舊姓（稍原）旅館**住吉屋本店**を經營して居る近々東京に支店を設け君がその經營に當る噂さがある、△高木武一郎君錦村江栗に**タカギ醬油**の釀造をなして居る此の期の誇りとするは**柔道五段**

鷹崎正見氏

を出した事である君は目下近衞師團に入營中であるが早大出身後古川會社に入り講道館の審査員であり過般神宮試合には日本一の優勝をなした事は世人衆知の事である。遠藤勇三郎君は平町議遠藤林松氏の男にして小名濱町久保田醫院の養嗣になつてゐる齊藤直一君植田町に雜貨肥料商を營む。御代德次君磐崎村に酒類釀造業を營んでゐる北鄕千恭君は東京[illegible]飛行場に助手をしてゐる菅朝鮮群山府で過つた事がある蛭田利光君は平銀行員金澤正晉君今は玉川村野川の白土家に入つて白土正吉となつてゐる草野應次君拓殖大學を出で朝鮮に行つておつたが目下大野村玉山に在り同地溫泉石屋は君の實家である。

△第十八回　卒業に**帝展**に數度入選した大森義夫君がある。

△第十九回　出に操觚界に入つて大阪にゐる比佐友香君あり右兩君は共に磐中時代×會幹事として將來を囑望された人々でこの×會は同校圖書科教諭故森合仙太郎氏の創成せるもので今尙ほ校友會の重きをな



磐中現職員一同と第廿六回卒業生大正十五年三月卒

してゐる。

△**新らしい同窓生**は深く知らず目下高等大學專門學校に就學の人多く小學校に教鞭をとつてゐる人も數多い平町在住者で、大竹久太四郎君は平町五丁目の大竹酒店の若主人であつて玉川靑年團長をしてゐる齊藤晃君等と**實業振興**會を起してゐる。村松義節君植田町磐東銀行の副支配人の地位に在り前途有望とせられてゐる。他に種々方面に活躍しつゝあるものあらんが右は筆者の知悉する範圍をものしたるもので今後とも**磐中同窓動靜**欄を設けて紹介する心算されば同窓生の活動振り近況等をどし〳〵寄稿して下さい（山庄生）

磐城文化史上に貢獻しつゝある
淸光堂を筆頭に平書籍店

平町二丁目淸光堂書店は縣立磐城中學校創設以來敎科用圖書の供給に任じ誠意誠心該校のため盡力しつゝあり時勢の進運に連れ同業堀魁文堂マルトモ柴田書店等現はれたが、才槌小路に乾康次氏をして分店を設け右同業者と協力して多年一日の如く今猶學生の機關の中樞として活躍しつゝあり磐城地方文化に貢獻せる事甚大なりと云ふべきで該磐城中學校と同店との關係は今更特筆大書の要なく世人衆知の事實であらふ吾々新聞に掌るもの此處に淸光堂本店マルトモ柴田書店魁文堂淸光堂分店に精神的磐城文化の魁として深甚の敬意を表するものである

磐中內茶話會と
松月堂

磐中在校中よく磐陽會尼子會綠東會東北團菊多會等の鄕友會あつて親密な茶話會を開いたものだが今猶右の會は現存し上級生は下級生の世話をなし下級生又上級生を信賴して親睦の度を溫めつゝあるが他辯論部庭野球部其他校友會の會合になくてならぬは菓子でその菓子は大抵平町田町松月堂の美味を用ひて居るこれ又磐中と松月堂は切つても切られぬ關係がある。

磐中庭野球部と
運動具商
大塚支店

運動のシーズンも近きて運動具を供給する平の商店中田町の大塚支店が群を拔いてゐるとの噂さであつて同店主人はそれ等催しある每に商賣氣を離れて精神的に盡力世話をなしつゝありと

◎乞御諒恕

本號は磐中校新築落成紀念號にて他の寄稿並びに社會雜相の報道及び一般廣告は紙面の都合上次號に讓りました。讀者並びに廣告主寄稿家の御諒恕を乞ふ。　（本紙編輯者）

磐中出身（最近の分）
諸學校入學者

東京高等師範學校体育科	二五	根本政男
陸軍士官學校	同	渡邊繁夫
陸軍士官學校	二六	山野邊榮吉
陸軍士官學校	同	水野忠護
樺太敎員養成	同	松井忠則
東京青山師範	同	永山草苗
東京高工學校	同	根本喜一
東京豐島師範	二四	相田千佐司
東京青山師範	二五	鈴木義正
橫濱高商業學	二六	高野脩二
東京青山師範	二四	鈴木鶴喜
日本齒醫專門	二六	鈴木喜政
宇都宮高農林	二六	渡邊淸美
米澤高工業校	二六	高木市五郎
米澤高工業校	二五	遠藤秀吉
仙臺高工業校	二六	伊藤淳
山梨高工學校	二四	小麥山盛雄
福島高商業校	二六	鯨岡實
宇都宮高農林	二〇	佐藤民男
東京商大專門	二六	菱沼繁三
東京齒科醫學專門	二四	肥田野三郎
北海道帝大水	二六	柳內平八郎
慶應大學豫科	二五	佐藤憲一
慈惠醫科大學	二六	逵來信一
明治大學豫科	二六	鈴木吉八
日本齒科醫專	二六	藥谷幸平
同	二六	若松政次
國學院大學	二五	永山保夫
同	二六	山下卓
國學院大學	二五	猪狩左久奈
第二早稻高學	二六	春日三代造
第八高等學校	二六	滑川重次
弘前高等學校	二六	淸見操
第一高等學校	二一	片寄利定
同	二五	日野[illegible]明
日本醫科大學	二三	土井勝夫
北海道帝大豫	二三	古川芳夫
慈惠醫科大學	二六	新妻芳正
福島師範二部	二五	渡邊
明治大學商科	二五	安島武雄
第一早稻高等學院	二五	富岡信義
水戶高等學校	二三	小川淸茂
同	二六	本城武
同	二六	中澤大次郎
同	二六	澤田隆義
新潟高等學校	二五	酒井正
同	二六	日野利春
水戶高等學校	[illegible]	岡部史郎
第二高等學校	二六	水野進
同	二五	飯島喜代二
同	二五	竹林貞吉
福島師範二部	二五	草野照位
同	同	折笠博義
同	二六	鈴木寬
同	同	吉野夫美
同	同	菊池四郎
同	同	若松都哉
同	同	高木一郎
同	同	高木淸美
同	同	大野正
同	二五	猪狩貞夫
同	二六	石井輝雄
同	二五	靑木英明
同	同	高木政壽
同	二六	矢內靜
同	同	小野克雄
同	同	北鄕續
同	同	長谷川榮
同	同	田久義光
弘前高等學校	三	岡田昇
東京醫專門學	二六	鈴木淸
同	二五	志賀政光
日本醫大豫科	二六	大河內信夫
同	二五	黑澤廣
藥學專門學校	二六	鈴木永藏

◆春着◆
柄行の淸新
裕屋モスリン店
平二丁目・電話一六一

平
龜田屋
セル
ネル
洛尺モスリン

內科、小兒科、皮膚科
[illegible]醫院
平町紺屋町
電話五〇七番

廣告正誤

◎本紙第四面第七回卒業生「比佐源造氏」の湯山町とあるは湯本町同面圖第十一回のうちに平町磐城建物會社井上貞治郎氏の分漏れたるは編輯者の失態同面圖泉村長中野立朔氏とあるは中村立朔氏の誤植につき茲に正誤す（編輯人）

平町田町
辯護士[illegible]
法律事務所
電話六三五番

活耳目

◆磐中校も高雅なる高月臺に新裝し此處に祝賀會を催す、加ひて納涼展覽會大運動會◆同校の博物標本と給品は城中のプラネートでおな◆その運動會に千余の健男兒の元氣振りを吾人同窓生は刮目してゐる。

祝磐城中學校新築落成

（次第イロハ順）

◎第一回卒業生
磐崎村　瀧德也
川前村長　永山德一
辯護士（平町）　安藤琢磨
高久村鈴木醫院　鈴木榮吉郎
◎第二回
平町合津耳鼻咽喉科醫院　合津重世
磐城中學校教諭　山崎宣吉
大浦村　酒井良平
衆議院議員（湯本町）　比佐昌平
渡戸小學校長　鈴木茂作
◎第三回
平町山崎合名會社　山崎清三
平町松村醫院　松村鐵郎
平町木村産科婦醫院　木村寅次郎
平町[illegible]院　清水廣政
磐城中學校教諭　廣田德行
◎第四回
湯本町（磐炭勤務）　箱崎清一
內郷村高萩醫院　高萩桂次郎
磐城中學校教諭　山名隆貞
勿來町小林醫院　小林美定
◎第五回
平町牧原眼科醫院　牧原修
平町（縣會議員）　草野順平
◎第六回
磐崎村　大平佐久馬
內郷村（村會議員）　加藤丈夫
平町（磐炭勤務）　新田目春松
四ッ倉町門馬醫院　門馬倉次郎

◎第七回
平町　小野和七
平町織田齒科醫院　織田豊太郎
植田小學校長　篠原保治
平町（町會議員）　阿部政右衛門
泉村（醤油釀造業）　松井汲
平町佐藤齒科醫院　佐藤武之
磐城銀行專務　白井一郎
湯山町（入山採炭勤務）　比佐源造
玉川小學校長（磐崎村）　杉山勇馬
◎第八回
植田町助役　小野忠衛
勿來町（前收入役）　橫山太一
平町　國府田直良
磐崎小學校長　柴田正則
平町　芹澤嘉彦
◎第九回
平町　石島致福
平町堀魁文堂　堀喜一
平町若松醫院　若松信吾
磐崎村　瀧收太
平町辯護士　仲里文平
平町明雲堂醫院　吉田芳太郎
福島民報平支局長　山田磐磨
平窪村（酒類釀造業）　松本德一
勿來町　安島久
勿來郵便局長　赤津一
平町自轉車商　鈴木彌太郎
◎第十回
平町龜田屋　三森虎雄

平銀行勤務　鳥海菊五郎
常磐工業會社專務　小野庄一
磐崎村　大田原憲太郎
磐崎村　織內孝平
平町金成醫院　金成忠義
平町酒類販賣　金子直祐
湯本町（磐炭勤務）　柳內準平
江名小學校（長崎）　四家建吉
平町（辯護士）　酒井喜代正
平町　久野二郎
◎第十一回
平町新妻眼科醫院　新妻幸之助
湯本町（入山採炭）醫師　藥谷兵庫
磐城時報社長　佐藤作平
小名濱町助役　高木保
平町二丁目青年分團長米穀商　長瀨齊一
勿來町齋藤齒科醫院　齋藤茂男
泉村佐々木醫院　佐々木三郎
植田町（法學士）　緑川秀男
平町マルトモ書店　柴田德二
江名町ヤマト醤油會社　遠藤俊一郎
平町釜諸屋商店　諸橋守次
◎第十二回
湯本町　若松修一
平町漆畑辯護士事務所　藥谷國平
平町中野呉服店　中野康平
平町著述業たひら新聞社長　山田政好
平町水道課　松井深
勿來町々會議員　赤津庄兵衛

◎第十三回
平町旅館住吉屋支店　酒井清
平町二丁目　石川友次郎
平町磐崎屋支店　小野信一郎
飯野村磐陽男山釀造元　永山篤平
平町大和田耳鼻咽喉科醫院　大和田郡司
平町（請負業）　丸山喜一郎
平銀行勤務　眞木修
平町大正洋瓦工業社　根本毅一
平町公園ときわ　志賀定平
◎第十四回
江名町々會議員　吉田正雄
勿來町　根本庸次
双葉郡廣野村　根本一良
豊間村　村上正雄
福島縣水產試驗場製造部主任　松本清之丞
藤田女學校長　藤田榮助
鹿島村　三島五一郎
◎第十五回
渡邊村（酒類釀造業）　高木吉男
平町舊城跡　村上清一
平町上田外科醫院　上田耕作
双葉郡木戸村　松本傳衛
星製藥會社營業部　小林讓三郎
平町荒物商伊勢屋　阿部岩次
◎第十六回
磐崎村　小泉恭平
草野村（神谷校勤務）　芳賀正義
鹿島村石城郡役所勤務　新妻一郎
草野郵便局長　新妻恭孝

湯本町（入山採炭勤務）　大越新
安達中學校教諭　岡田朝五郎
植田町（石炭米穀商）　小野保
双葉郡熊町村　吉岡善一
平町砂糖商　吉田義男
磐崎村　吉田明信
平町（平驛勤務）　高野益藏
大浦村　丹野憲司
氷見女學校教諭　高木稻水
東京鐵道局國府津電力區工學士　長瀨元治郎
湯本郵便局長　鯨岡潔
湯本區會議員　鯨岡久一郎
星製藥會社　松本昌光
同　鷲清章
日本紙業會社「東京」　佐藤績
植田町森合齒科醫院　森合芳男
平町釜諸屋商店　諸橋元三郎
湯本町旅館松柏館　比佐榮一
小名濱町　菅原道一
平町關內油店　關內正一
◎第十七回
平町原齒科醫院　原精一
東京順天堂病院　小野義篤
平町旅館住吉屋本店　青天目益藏
錦村タカキ醤油釀造元　高木武一郎
近衛師團在營　鷹崎正見
大野村玉山　草野鷹次
植田町肥料雜貨商　齋藤直一
磐崎村（醤油釀造業）　御代德次

平銀行勤務　蛭田利光
玉川村野田　白土正吉
◎第十八回
東京府下田端大東製藥所　新妻喜男
◎第十九回
植田町磐東銀行副支配人　村松義節
◎第二十回
平町五丁目酒類販賣商　大竹久太郎
玉川村青年團長醤油味噌釀造業　齋藤晃
◎第廿一回
四ッ倉町國學院大學卒　新妻熊男
植田町森合齒科醫院內（二十四回）　森合力
平町五丁目釜屋商店　諸橋久四郎
水戸高等學校在學中　諸橋敬一郎
山形高等學校在學中（二十二回）　新妻正男
大浦校奉職（二十六回）　新妻惠男

渡邊商事會社
專務　**渡邊渡**
自宅　玉川村

常磐工業會社
常務取締役　**加藤新**
自宅　平町田中

勿來軌道會社
皆川三六

自治之研究社
酒井貞三

四ッ倉町
門馬公平

高久村
藁谷明

飯田一二

鈴木辰三郎

中野甲藏

金成通

縣會議員（次第不同）
石城郡
井上茂作
木村清治
草野順平
小野晋平
古川傳一
大平睦四郎

（次第不同）
石城郡長　水野虎三郎
平町長　伏見彦衛
草野村長　高岡唯一郎
大野村長　木田織江
飯野村長　山崎吉平
高久村長　小野淺治
鹿島村長　荒川忠治
小名濱町長　鈴木榮
泉村長　中野立躬
山田村長　安島重三郎
磐崎村長　織內司馬太郎
湯本町長　高木己之吉
玉川村長　永井億彌

植田町
醫師　**山野邊文雄**

鹿島村
助役　**新妻贇雄**

好間村
消防組頭　**叶多清**

書籍文房具學校御用達
平町二丁目
清光堂本店
關內彥太郎
電話百卅一番

書籍文具雜誌運動具商
マルトモ柴田書店
柴田德二
電話二三四番

書籍文具運動具商
平町才槌小路
魁文堂
堀喜一
電話三二三番

書籍文房具雜誌商
平町才槌小路
清光堂分店
乾康次
電話三一五番

質商
平町四丁目
三井富吉

履物問屋
平町二丁目
三井商店
電話一五六番

平町大工町
公債質商
多田井商店

平町二丁目
遠藤帽子店

湯本町
坂本醫院

銘酒（御代の鶴）釀造元
鹿島村
佐原酒造店
佐原久義

小名濱町西町
片岡醫院

植田町
片岡醫院
電話一〇七番
院長慈惠醫學士　片岡章

既製洋服
平町二丁目
あかや洋服店
電話二〇三番

平町田町
運動具靴商
大塚支店

藥劑師
平町五丁目
山野邊藥局
山野邊東次郎

祝

磐城中學校
新築落成

石城郡銀行組合
平藝妓屋組合

平料理屋組合
平町會議員一同

山崎合名會社
東部電力平營業所

平學校長懇話會
平町醫師カロリ會

---

no.13

磐城中學校
新築落成
記念號

磐城中學校
その沿革と
現在の概要

白線二條！櫻花紋の學章！煙の平町揚土臺から高雅な高月臺上に落ち着いた、吾が福島縣立磐城中學校の沿革とそして現在の概要は大略左の如くである。

明治二十八年十月三十日福

在校生徒數千五十四人の二十二學級職員總數三十五人となつて居る、因みに現在の月謝は三圓五十錢外に校友會費月五十錢五年級にのみ修學旅行費積立として月五十錢であると尙

歷代校長は

▲植竹源太郎氏　明治四十四年三月迄
▲西村岸太郎氏　大正三年

▲現校長滑川一郎氏である。

卒業生は

本年三月第二十六回迄壹千九百七十八人を出して居る但しその死亡者は約一割はある樣である、尙ほ本年は定員二百四十名に對して六百三十人もあり中學校として入學志願率全國でも有數とせられ新校舍又完備の點に於て東北一であらふ、因

●●●●●●展覽會出品の數々

△小學校兒童自由展覽會△縣下中等學校生徒作品展覽會△本校生徒平常成績品展覽會△繪畫圖案△×會第廿六回展覽會△版畫展覽會△本校卒業生作品展覽會△美友會作品展覽會△近藤教諭作品展覽會△美術學校借出傑作品展覽會△大家作品展覽

●●●●●●●同窓會の紀念事業
阿部氏等の努力に依つて
固定ネツト竣成
倉庫も出來るであらふ

時勢にアダプトして
同窓會役員の
改造を要すとの聲
會員一般に漲つて居る

磐中同窓會役員の改造問題が卒業生間に話題となつて居るが同窓會そのものは平町同窓員の同窓會にあらず各回數毎に、各地方四ッ倉、小名濱、湯本、植田、勿來、江名、東京、双葉、多賀等各地方部々々に幹事を設けて平

前校長桐谷文平氏と時の辯論部員

瓶信一、比佐義男▲第八回（四十一年）會長山崎宣吉、副會長清水廣政、幹事加藤丈夫、諸橋嘉吉、梅原幸助▲第九回（四十一年）會長廣田德行、副會長新田目春松幹事白井一郎、小齋良、高萩賀▲第十回（四十三年）會長山崎清三、副會長新田目春松、幹事田邊保皓、久山二郎、安島久▲第十一回（四十四年）會長山崎清三、幹事田邊保皓、新宮健雄、柴田德二、大正元年は開會を遠慮したり▲第十二回（大正二年八月）